

2. 整備事業  
I 産地競争力の強化を目的とする取組用

(三重県 平成23年度)

市町村名	事業実施主体名 (対象作物・畜種等名)①	事業実施後の状況① 成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	特別特加算の取組の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考	
			計画時(平成19年)	1年後(平成20年)	2年後(平成21年)	3年後(平成22年)	目標値(平成22年)	達成率					交付金	都道府県費	市町村費	その他					
			計画時(平成19年)	1年後(平成20年)	2年後(平成21年)	3年後(平成22年)	目標値(平成22年)	達成率					計画時(平成19年)	1年後(平成20年)	2年後(平成21年)	3年後(平成22年)					目標値(平成22年)
桑名市・木曽町	桑名農業協同組合 トマト	施設園芸における燃油使用量を10%以上低減	6,908 KL (10aあたり)	6,395 KL (10aあたり)	6,178 KL (10aあたり)	7,017 KL (10aあたり)	6,217 KL (10aあたり)	-16%	目標年度の冬の低温で厳しく燃油使用量が增大した結果、目標を達成できなかった。		桶原雨57台 南熱回収装置2台	3,984,750	1897000	0	0	2087750	H21.3.27	当初の計画通り機器導入による省エネ効果は発揮され、H21年度には目標を達成した。しかし、H22年度は例年比に比べて冬の寒さが厳しかったため逆に燃油使用量が増加し、目標の達成ができなかった。 今後省エネ率一化のための生産管理を適切に行い、燃油使用量の削減を促進していききたい。	トマト栽培は冬の温度保持が品質向上に重要であり、目標年度に目標が未達成であったのは、目標年度の冬期気温が例年を大幅に下回る厳しい低温であったためである(過去20年間の1月平均気温は平成4.7℃、H22年度3.0℃、同3月平均値8.5℃、H22年度7.1℃)。事業開始後、順調に燃油低減効果が現れ、H21年度には目標達成していることから、平年値の気温以上であれば、事業効果が発揮され、目標は達成されると考えられる。今後、省エネ率一化のための生産管理を適切に行い、燃油使用量の削減による農業経営の改善を図りたい。		
鈴鹿市	開ささ茶	当該農業機械等の利用に係る燃油の使用量を10%以上低減	6.3L/hr (H20)	3.5L/hr	3.5L/hr	4.6L/hr	166%	省エネ機械の導入により43%の燃油消費量削減効果があった。		茶複合管理機	15,540,000	4933000	0	0	10607000	H21.3.31	ディーゼルエンジン搭載の茶複合管理機の使用により47.4%、省エネマニュアル実施により4%の合計3.5L/hr燃油消費量の削減効果があった。また労働時間においては、既存機械よりも短縮され、省エネ効果があった。	事業効果が発揮されている。適正な維持管理を継続されたい。			
鈴鹿市	南緑梓園	当該農業機械等の利用に係る燃油の使用量を10%以上低減	6.8L/hr (H20)	2.7L/hr	3.3L/hr	4.6L/hr	158%	省エネ機械の導入により51.4%の燃油消費量削減効果があった。		茶複合管理機	8,505,000	2,700,000	0	0	5,805,000	H21.3.31	導入した茶複合管理機による41%、省エネマニュアル実施による低減効果4%、合計2.8L/hrの燃油消費量の削減効果があった。また、摘採、整枝の労働時間は導入前と変わらなかった。	事業効果が発揮されている。適正な維持管理を継続されたい。			
津市	三重中央農業協同組合	土地利用型作物(水稲・大豆)に係る燃油の使用量を20%以上低減	20年計画 ○燃料消費量・玄米1トン当たり19.80 ○燃料消費量・玄米1トン当たり23.70 ○燃料消費量・大豆1トン当たり23.70 ○燃料消費量・大豆1トン当たり65.10	○燃料消費量・玄米1トン当たり15.40 ○燃料消費量・玄米1トン当たり21.70 ○燃料消費量・大豆1トン当たり38.30 ○燃料消費量・大豆1トン当たり15.00	○燃料消費量・玄米1トン当たり2.70 ○燃料消費量・大豆1トン当たり7.70 ○燃料消費量・大豆1トン当たり9.40	○燃料消費量・玄米1トン当たり15.40 ○燃料消費量・大豆1トン当たり18.50 ○燃料消費量・大豆1トン当たり50.80	388% 307% 371%	燃料消費量削減目標を立て、荷役統一を図ったことで、品質向上を図ることが出来たと同時に燃費削減も大幅に達成できた。	10a当たりの労働時間を10%以下に抑制	穀物乾燥調整施設(遠赤外線乾燥機3台)	2,250,000	0	0	2,475,000	H21.3.16	燃料消費量の削減については成果目標を達成できた。 労働時間については、一部期間において施設運営に係る職員数を増やしたことから、目標年度である22年度においては、目標を達成することができなかった(4分/10a超過)。引き続き、省エネマニュアルの遵守とともに、効率的な施設運営を行う。	目標年度の労働時間実績はわずかながら越えているものの、事業効果が概ね発揮されていると考える。引き続き、事業効果が発揮できるよう省エネマニュアルによる管理を継続されたい。				
いなべ市	(有)アグリ藤原	土地利用型作物(麦)事業実施地区における麦の新品種の作付面積を2%以上増加	大麦の新品種作付面積18ha	大麦の新品種作付面積21.6ha	大麦の新品種作付面積36.2ha	大麦の新品種作付面積35.5ha	102%	事業実施地区における大麦の作付が17.5ha増加し、目標値に対して作付面積の拡大、品質の向上を図ることが出来た。		共同利用機械(産用無人ヘリコプター1台)	7,875,000	2,625,000	0	0	5,250,000	H21.3.24	入梅前の収穫が可能で品質の確保と需要も伸びていることから、今後、大麦の収量面積が増加し品質の向上が図られた。	事業効果が発揮され、麦の栽培面積が伸びている。今後とも、適正な維持管理を継続され、麦産地の強化を図りたい。			
津市	ヤマギシ農産事業(飼料用牛)	耕種作物型増産(飼料用牛)飼料作付面積を3%以上増加	5.9ha	24.7ha	20.8ha	21.8ha	20ha	113%	飼料作付面積は、目標以上に増加した。	耕種作物型増産(飼料用牛)	8,925,000	4,250,000	0	0	4,675,000	H20.8.29	当初の目標であった、豊里周辺で良質サイレージを作り、肉牛繁殖に給与することは、実現できた。また、作付面積が増加し、乳牛にも年間給与が可能となった。	飼料増産が図られたことから、粗飼料増産が考えられる。今後とも引き続き利用を推進し、飼料自給率向上を図る。			

都道府県平均達成率	181.0%	平均達成率については、目標100%以上を達成しているが、2点の目標について未達成となっている。今後も全目標達成のため、適切な指導を行う。
-----------	--------	--

(注) 1 別紙様式1号の2の1に準じて作成すること。  
2 要領第1の1の(2)のアの(ア)から(ウ)の場合には、事業実施後の状況の欄を追加し、記入すること。  
3 別添として、各事業実施主体が作成した事業実施状況報告書を添付すること。  
4 「事業実施主体の評価」欄と、「都道府県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。  
5 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都道府県全体の総合所見を記入すること。  
6 「都道府県平均達成率」欄は、都道府県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。